

とうべつ

議会だより

No 152

平成20年2月1日発行



元気に寒稽古に励む当別柔道少年団（1月18日）

第5回 定例会

平成19年12月

議案審議	2～3
町内所管事務調査	4
議会のうごき	4
クエスチョン? 一般質問	5～8

世界的原油高騰の波が本町にも 設の燃料費増額補正される!!

(12月定例会)



(総合体育館)



(西当別コミュニティーセンター)



ゆとろ (総合保健福祉センター)

緊急に

福祉灯油支給事業可決される!!

平成十九年度第五回定例会は、十二月十二日～十四日までの三日間の日程で開催されました。
一般会計補正予算、国民健康保険特別会計補正予算、介護保険特別会計補正予算、介護サービス事業特別会計補正予算、水道事業会計補正予算、当別町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定、当別町長の資産等の公開に関する条例の一部を改正する条例制定、当別町国民健康保険条例の一部を改正する条例制定、当別町土地開発公社定款の変更、人権擁護委員の候補者の推薦などを審議し、提案された議案すべてを原案のとおり可決しました。
四名の議員が一般質問をしました。

一般会計 増額補正

平成十九年度当別町一般会計補正予算は歳入歳出それぞれ一千三百九十五万二千円増額しこれを可決。総額九十億七千八百三十八万三千円としました。

歳入では、土地売却収入二百八十二万五千円、介護保険特別会計繰入金六百二十一万一千円、介護サービス事業特別会計繰入金二百三十万円、障害者福祉費清算金七百三十三万四千円などを増額補正、国庫負担金・更正医療給付費二百三十三万三千元、道負担金・更正医療給付費一百十六万七千元、道補助金・障害者自立支援対策推進費二百十七万五千円などを減額補正しました。
歳出では、高齢者世帯や障がい児・者のいる世帯、ひとり親家庭世帯などを対象とする世帯に対

し、一世帯当たり一万円を支給する福祉灯油支給事業五百六十万円を補正し、過年度分町税還付金一千七百六十六万四千円、老人福祉施設措置費二百七十四万三千元、火葬場費修繕料二百三十六万六千元、区画整理登記業務委託外六百二十六万八千円、各施設の燃料費・暖房用七百四十九万七千円などを増額補正、重度心身障害者医療費五百万円、補助金・障害者自立支援対策推進費二百五十七万五千元、扶助費・更正医療給付費四百六十六万六千元、廃棄物処理等負担金七百六十九万七千円などを減額補正しました。

一般質問

一般質問は十二月十三日、十四日の二日間行われました。

洞内真由美議員、桐井信征議員、柏樹正議員、岡野喜代治議員の四名が登壇し、町政をたどりました。詳しくは五ページから八ページに掲載しています。

委員会報告

《総務文教厚生常任委員会》

□総務文教厚生常任委員会道内所管事務調査終了報告

《産業建設常任委員会》

□産業建設常任委員会道内所管事務調査終了報告

第一回臨時会

H20・1・23

第一回臨時会は、一月二十三日に開催され、議案一件(平成19年度当別町一般会計補正予算)が原案可決されました。

歳入では民生費国庫補助金六千万円が増額補正され、歳出では新たな共生型基盤整備事業先進的事業支援特例交付金六千万円を補正し、これを可決。総額九十一億三千八百三十八万三千円としました。

議員提案

議員提案第一号

□ 地方交付税の充実強化を図り地域間格差の解消を求める意見書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

議員提案第二号

□ 「森林環境税(仮称)」の導入を求める要望意見書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

議員提案第三号

□ 義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

議員提案第四号

□ 事業承継円滑化のための税制措置等に関する意見書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

議員提案第五号

□ BSE全頭検査の継続を求める意見書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

議員提案第六号

□ 日本の医療と国民の安心を守るための意見書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

議員提案第七号

□ 沖縄戦に関する教科書検定の撤回を求める意見書の提出について
提出者・洞内真由美
本議員提案に對して、後藤議員が反対討論を、

書の提出について
提出者・後藤 正洋
全会一致で可決。

【原案可決】

【原案可決】

議員提案第八号

□ 医師不足を解消し、地域医療体制の立て直しを国にもとめる意見書の提出について
提出者・赤坂 正信
全会一致で可決。

【原案可決】

【原案可決】

【原案可決】

【原案可決】

【原案可決】

【原案可決】

【原案可決】

【原案可決】

柏樹議員が賛成討論を行い、採決の結果、賛成少数で議員提案は否決されました。

【原案否決】

議員提案第一号(第六号)に関して、意見書等の取り扱いは議長に一任されました。なお、議員提案第一号は、十二日の議会終了後に各議員が手分けし、関係する道内選出国會議員の札幌事務所に意見書を持参し要請活動を行いました。

請願・陳情書
審査付託の件

総務文教厚生
常任委員会付託

一番

□ 最低保障年金制度の実現を求める陳情書
陳情団体
全日本年金者組合
当別支部

二番

□ 高齢者の医療負担増をやめ、後期高齢者医療制度の抜本的な見直しを求める国への意見書に関する陳情書

陳情団体
札幌地区労働組合総連合

議長 赤坂 正信

三番

□ 「医師不足を解消し、地域医療体制の立て直し」を国にもとめる意見書の採択に関する陳情書
陳情団体
札幌地区労働組合総連合

議長 赤坂 正信

五番

□ 後期高齢者医療制度の中止、撤回の意見書の提出を求める陳情書
陳情団体
農民同盟当別支部

支部長 堀 梅治
全日本年金者組合
当別支部
支部長 井尻 昭彦

本会議採択

四番

□ 米政策・品目横断的経営安定対策に関する請願書
陳情団体
北石狩農業協同組合

代表理事組合長 川原 博志
株式会社辻野商店
代表取締役社長 辻野 浩

当別土地改良区

理事長 山田 智

理事 南部 重雄

中新土地改良区
理事長 田畑富美男

当別町農民同盟
委員長 堀 梅治

紹介議員
市川 正・神林 俊一
岡野喜代治・小早川孝男
白杵 英男・稲村 勝俊

本定例会において陳情書四件、請願書一件が提出され、一番、二番、三番、五番は所管である総務文教厚生常任委員会に付託され、四番は農業政策の重大な局面をむかえており、本町の農業団体が一堂に会し、請願している状況下でもあり、本会議採択とされました。

意見書等の取り扱いは議長に一任され、十二月議会閉会後、十二月十八日(十九日)の日程で出張し、関係機関、北海道選出国會議員等に意見書を提出しました。

故 元当別町議会議長 千葉莊康氏
特旨叙位・旭日双光章を受章

平成19年9月26日に満66歳の若さで急逝された元当別町議会議長千葉莊康氏が特旨叙位および旭日双光章を受章されました。千葉氏は昭和46年に初当選され以来7期を当別町議會議員として、昭和58年には議長に就任し町政発展に寄与されました。永年の功績に敬意を表するとともに、故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



授与された勲章及び勲記

選挙管理委員会委員及び補充員

任期満了に伴う当別町選挙管理委員会委員及び補充員の選挙が行われ、議長指名推選により選挙管理委員4名、補充員4名が満場一致で選出されました。

《任期》

平成19年12月23日～平成23年12月22日

《選挙管理委員》



松尾友昭氏 (65歳)
当別町太美町 在住



並川晃治氏 (63歳)
当別町末広 在住



高橋雄三氏 (61歳)
当別町西町 在住



辻 伸行氏 (54歳)
当別町青山 在住

《補充員》

木屋路 喜代史氏 高橋 理英子氏
片岡 芳仁氏 森 宮 恵久子氏

教育委員会委員に 大東 映子氏 新任同意



大東映子氏 (62歳)
当別町スウェーデンヒルズ 在住

教育委員会委員吹田朋子氏が平成19年12月14日をもって任期満了となることから、大東映子氏を任命することについて町長より提案があり、議会は満場一致で同意しました。

人権擁護委員に 岩田 伸一氏 再任同意 菅 純子氏 新任同意



岩田伸一氏 (69歳)
当別町太美南 在住



菅 純子氏 (60歳)
当別町六軒町 在住

人権擁護委員の岩田伸一氏、林朋子氏は平成20年3月31日をもって任期満了となることから、岩田伸一氏の再推薦及び菅純子氏の推薦について町長より提案があり、議会は満場一致で同意しました。

町内所管事務調査 を実施しました。

産業建設常任委員会が、町内の所管事務調査を行ないました。

委員は各所で説明を熱心に聞き入りました。

産業建設常任委員会 1月25日



水道事業
・第3次拡張事業 景林配水池増設工事



当別幸町土地区画整理事業
・当別大通道路改良工事

1 25	1 24	1 24	1 23	1 23	1 21	1 21	1 17	H 20 1月	12 25	12 18 19	12 14	12 13	12 12	12 12 14	12 6	12 5	12 4	12月	11 29 30	11 19 20	11 8	H 19 11月	議会のごうき (平成19年11月～平成20年1月)	
産業建設常任委員会	議会運営委員会	議会広報特別委員会	平成20年第1回臨時会	議会運営委員会	総務文教厚生常任委員会	教常任委員会来町	士幌町議会・総務文	議会広報特別委員会	議会運営委員会	意見書提出(東京都)	議会運営委員会	札事務所要請行動	総務文教厚生常任委員会	議会運営委員会	平成19年第5回定例会	道内選出国会議員在	産業建設常任委員会	総務文教厚生常任委員会	議会運営委員会	全国大会(東京都)	第51回町村議会議長	年記念式典(東京都)		地方自治法施行60周

特別支援教育支援員、
研修の充実を

研修の充実を



洞内真由美 議員

教育長

教職員研修を開催し、実践的な課題に対して理解を深める

特別支援教育について

問 二〇〇七年度から、

従来の特殊教育が特別支援教育へと転換された。障がいを持った児童生徒は、その子供の一生を見通した長期的な視点での教育的支援を必要としている。教師や指導者が連携協力して一貫した対応ができるよう個々に応じた教育支援計画が必要と考えるが教育支援計画の現在の具体的な作成状況は。また、小中学校において障がいのある児童生徒に対する介助や学習活動上の支援を行う特別支援教育支援員の活用が進められ、配置には地方交付税措置が行われている。この財政措置を活用し、



当別中学校で開催された先生を対象とした平成19年度石教研学校課題研究発表会

各学校へ適正に支援員が配置されるべきと考えるがいかがか。また、特別支援教育にはひとりひとりの障がいの状態を踏まえた支援に関する理解が必要不可欠である。管理職や通常学級の先生、コーディネーターだけではなく養護教諭、保護者など、より多くの目で子供たちの発達障害に気づき、支援することが重要であると考えるが、研修体制と具体的な実施状況について伺う。

が膨大で、現状の教職員の業務内容ではなかなか対応しきれない。保護者理解とともに、より実践に合った支援計画のあり方についてコーディネーター連絡会議で研究しているところである。

特別支援教育支援員の

配置は、教育委員会として

は次年度町内の大規模校への配置の予算化について町長部局と協議をしているところである。

また、冬休み期間中に教職員研修を開催することとしており、特に今回は特別支援教育の実践的な課題に対して理解が深まるよう、具体的な問題についての研修会になるよう計画をしている。

安定した水道水の供給を

問 当別町の水道普及率は九十九・三%

と整備されているが、今年七月に老朽化した水道管の腐食による漏水から長時間の断水がおきた。地域水道ビジョンを作成し、水道管の布



町道32線南4号 布設状況

設替等計画的に実施すべき。布設替時期をむかえている水道管は全体の何%に当たるのか。当別ダムについてだが、今年七月に厚生労働省から、本体着工前の適切な時期に評価を実施するように各都道府県に通知があった。これに伴い石狩西部広域水道企業団では、十一月三十日から再評価を実施している。今回の再評価では、札幌市、石狩市、小樽市、当別町、すべての構成団体において約六十五%もの下方修正となったが当別町の負担金、出資金の額は。また、再

評価についても広報等で情報公開し町民の意見を聞く機会を作るべきだが見解は。

町長 布設替（耐用年数経過）の水道管は〇・四%

である。負担金と出資金については、企業団の再評価における水量確定後、構成団体に費用負担の割合を協議して決定する。

再評価は、事業主体の企業団が実施し、来年二月ころに評価報告が一般公開されると聞いている。今後、当別ダムも含めた町の諸問題、地域課題について地区別懇談会などを行う必要がある。

再評価は、事業主体の企業団が実施し、来年二月ころに評価報告が一般公開されると聞いている。今後、当別ダムも含めた町の諸問題、地域課題について地区別懇談会などを行う必要がある。

平成二十年度以後の財政運営の見通しについて



桐井 信征 議員

町長 国の内示に沿う二十年度予算は超縮小予算の想定も必要である

地方交付税が削減される中、本年度の歳入欠損、来年度の予算について、総務省の来年度における地方交付税の見通しは、平均で四・二％程度の減額と聞いている。度重なる地方交付税の減額によって特定の自治体を除きほとんどの自治体が歳入確保の見通しが立たず、特に地方交付税の依存度の高い北海道をはじめ、市町村は大変な状況になっていると推測される。このような状況の中での本年度の歳入欠損、来年度の予算の見通しについて伺う。財政再建を確実にする地方交付税の充実強化を求めため、道内

市町村と協力体制をとるべきでは。本定例会の冒頭、議員提案の形で地方交付税の確保を強く国に要望する意見書を全会一致で採択し、議決した。平成十六年度の骨太方針では、地方交付税については地方自治体の安定的な財政運営に必要な一般財源は確保すると明示されているなかで十五年と比較しても約十億円もの削減となる。町長はこの窮状を訴えていると思うが、北海道が一つになって国に対してこの危機状況を訴えていく必要が今以上にあると思うが。

町長 本年度の歳入歳出状況だが、国の地方財政計画に基づく昨年の大蔵内示により三十二億円で予算立てした普通交付税は七月に二千六百万円減額で確定した。各議員は当別町ではじめて、「地方交付税の充実強化を図り地域間格差の解消を求め意見書」を携え国会議員等に知らせる行動をされた。これらの行動には道町村会も理解を示され、それほど地方自治体は深刻だということである。



意見書は地方（町村）の意見を中央に届けるかけ橋

町税は予算確保で見込みだが、本年度予算二億円計上している特別交付税は、三月最終帳じりはマイナスになるので、という危惧があり、二十年度については交付税額の概要に注目をしている。最終的には国の内示に合った超縮小予算になることも想定しなければならぬ。

交付税は重要な制度であり、引き続き総額確保に向け北海道町村会副会長の立場でも北海道と連携して二十日には全力で要請していきたい。



広報でもたびたび周知しています

財政状況の住民周知のあり方について

問 再構築プラン作成時から広報、町のホームページ等で情報を開示していることは知っているが、町民一人一人に理解されているのか疑問に思う。現在さまざまな改革を進めてきて、この先、事業の見直し程度では乗り切れない状況を理解して頂く周知方法を検討すべきではないか。

町長 ホームページや広報紙で再三周知しており、広報では「町政執行方針」七月号で「大丈夫か当別町の財政」十一月号で「平成十八年度決算」とか情報公開しているが、町財政の問題など、大事なことは直接町民に接触してお話をする。行政推進員会議でお諮りし、地区別懇談会のような形で、五なり十個なりに地域分けし、地区別のテーマを絞り懇談をする形で説明をしていきたい。集まりが良くなるようにどう効率的に行うかを今後十二分に検討し、桐井議員の質問趣旨に沿うような形を町民に周知させる努力をしなければならぬ。

交付税の復元、増額を国に働きかけを強めるべき



柏樹 正 議員

町長

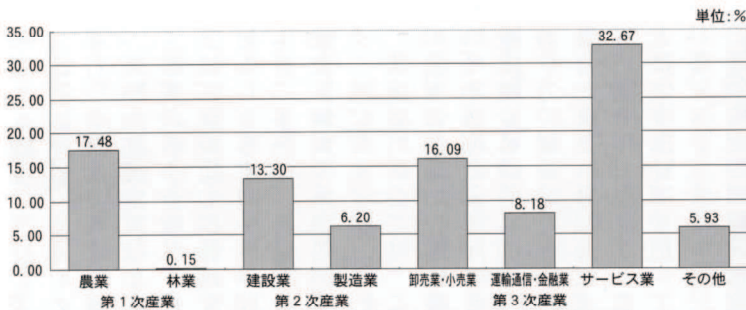
財政状況を説明し、地方交付税が重要かを今後も要請し続ける

町民の暮らしの現状は問 福田首相は社会保障の削減路線や消費税の方針を掲げた小泉、安倍両内閣の骨太方針を堅持し、国民の暮らしの破綻をますます深刻にしている。

一方で大企業や大資産家に減税の大サービスをしてきた。最近の当別町内においても長い間農業を続けてきた中堅どころの農業者が離農、親の代から経営してきた事業主が「休業・廃業の道に進むしかない」と。夫の失職が引き金となって家のローンが払えなくなると離婚をして家を手放し、当別から引越した人もいる。所得の減少や大幅なボーナスカット、相次ぐ負担

増、灯油などの大幅な値上げが続く、多くの町民の暮らしはますます厳しくなっていると思うが、町民の現状について町長はどう認識しているか。

町長 バブル崩壊による長期不況や社会経済の構造改革などから、日本の労働環境では給与抑制や人員削減が行われ、派遣社員、パート等の非正規雇用者が増加している。地方経済は停滞状況にあり、本町においても一



当別町産業別就業人口割合 (平成17年国勢調査資料による)

部の製造業を除き事業所数、従業員数が減少し、農家戸数、農業者も減少している。町の就業場の縮小や人口減少に影響を与え、残念ながら町民の暮らしは厳しい状況にあると認識している。

私は、この状況を解決するため、北海道では地域に根付いた産業の振興や立て直しを、農業にはもっと力を注ぐべきであることを町村会や道庁に向けて発言している。

交付税増額の働きかけを問 政府は、地方分権を名目にした三位一体の改革により地方財政を六・八兆円も縮小し、過去の経済対策による公共事業の地方債償還が重くのしかかり地方の自治体の財政状況が悪化。地方自治体の命綱である交付税を一方的に削っており、健全化判断比率に照らして早期健全化を図れというの、国の強引な押しつけとも言うべきもの。地方重視の立場で交付税の復元、増額を国に働きかけを強めるべきと考え

町長 北海道、北海道町村会と連携して国に要望しているし、本町議会初日、議員提案され全会一致で採択された「地方交付税の充実強化を図り地域間格差の解消を求める意見書」を持参しての行動は今望まれている議会活動であり、当別町議会議員の活動が報道されることは効果が大きかった。私も道内選出国會議員、各省庁に要望をしておき、今の地方自治体の財政状況を説明し、いかに地方交付税が重要かを今後も要請し続ける。

ゆとりのおふろの利用状況について 問 町民の入浴の機会の確保について、現在当別町の町営住宅入居者でおふろの設置状況について、どのように把握しているか。高齢者の場合はゆとりも利用しているが、ゆとりの入浴機会は週五回から一回に減って、利用者は我慢をしているのではないか。元の五回に戻してほしいという声が多くあるが。



ゆとりのおふろは火・金の週2回入浴できます

町長 利用者実人員は十八年度は八十九人、十九年度は十一月末現在で七十五人で十四人ほど減であり、浴場は、一カ所で大体十人程度入浴でき、男女合わせて一日の定員は一人一時間利用しても百人程度で十分余裕があり、利用日数の増は、財政状況を踏まえ現状維持の方針でいきたい。

その他質問
・ 公衆浴場への町の
中・長期視点について

支庁再編案をどう考えるか



岡野喜代治 議員

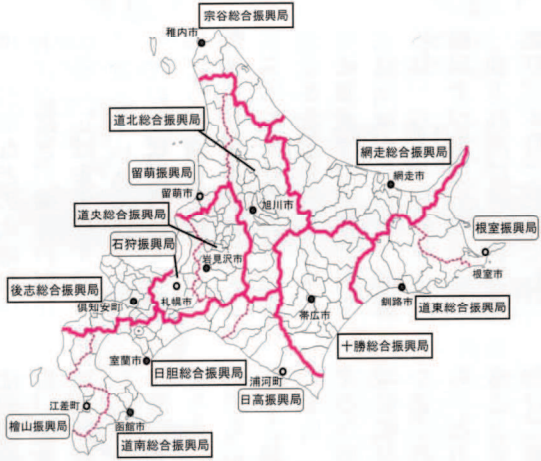
町長 情報収集し、本来の支庁のあるべき姿に近づける努力を

支庁再編案について

問 北海道が現在ある十四の支庁を九の総合振興局(仮称)と五の振興局(仮称)に再編する案を固めたとの報道があった。再編案では、当別町を所管する石狩支庁は空知と統合され道央総合振興局となり、その組織を岩見沢市に配置すると示されている。農業、水産、林務、商工労働など統合され担当地域は広域化する。

これまでのような事務事業への対応の水準が維持されるのか。また、岩見沢市に総合振興局が設置されることで弊害が生じないか。支庁再編案に対してどう考えるか。

町長 北海道が十一月に



北海道が示した「新しい支庁の姿(原案)」

町村会の動向を踏まえ、石狩管内の八市町村と連携を強めながら今後とも支庁再編に関する情報を収集し、本来の支庁のあるべき姿に近づけるために努力したいと考えている。

農地・水・環境保全国上対策事業の取り組みについて

問 本事業は、農村環境の保全と質的向上を図るための地域共同の取り組みに対する支援を目的に今年度から五ヶ年にわたり実施される。本町では九の地域保全組織が立ち上げられ活動している。事業実施に当たり、町は十九、二十年度の二ヶ年の事業効果を検証し、二十一年度以降の事業継続の可否を判断するとのことである。財政難の折、事業効果を見極め判断



ゴミ拾いの様子(当別太)

め市町村に十七億円の事務費を出すのが本事業の予算枠であり、当別町事業費の二億四千万円のうち、四分の一が当別町の負担となり、五千数百万円の町費投入については議会で十分、議論した。四分の一の支出で二億四千万円の経済効果が期待できる。また、百分の公費の事業費で、農村景観が本場にきれいになった、農村が活気づくようになったと町民の皆さんに見られるような活動計画を立てていた。だき春から取り組んでいたことが大切だと思いい、その結果によって二十一年度以降も対応を検討していかなければならないと思う。

国は、地域、農業者で行う共同活動事業に二百五十六億円、農家集団が先進的な営農活動をする場合は三十億円、その推進のためは重要なことと理解するが、農村集落を構成する住民の高齢化、混住化の進行により弱まりつつある農地や施設などの環境資源を守り地域のまとまりを再生させるために本事業の果たす役割は大きいと思うが。

町長 過疎化、高齢化、農村混住化の住宅街、そういう状況で農業の持続的発展、多面的な機能の健全発展を図るためにはどうするかという中で農地、水、環境を良好な形で保全し向上させていかなければならない。国は、地域、農業者で行う共同活動事業に二百五十六億円、農家集団が先進的な営農活動をする場合は三十億円、その推進のためは重要なことと理解するが、農村集落を構成する住民の高齢化、混住化の進行により弱まりつつある農地や施設などの環境資源を守り地域のまとまりを再生させるために本事業の果たす役割は大きいと思うが。

当別町議会 会議出席一覧表

(平成19年1月～12月)

○印……出席 ×印……欠席

議 会														常任委員会				特別委員会														
	3・7	3・9	3・12	3・16	3・19	3・20	5・9	6・5	6・7	9・7	9・10	9・14	12・12	12・13	12・14	総務常任委員会 (2回開催)	文教厚生常任委員会 (3回開催)	総務文教厚生常任委員会 (5回開催)	産業建設常任委員会 (7回開催)	議会運営委員会 (16回開催)	議会広報特別委員会 (8回開催)	H19年度予算審査特別委員会 (4回開催)	H18年度決算審査特別委員会 (3回開催)									
議員名	第一回定例会						第二回臨時会			第三回定例会			第四回定例会			第五回定例会																
洞内 真由美	平成19年4月初当選						○	○	○	○	○	○	○	○	○				5		5	/	3									
稲村 勝俊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		5			8	4	3									
石川 和栄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3	5			7	4	3									
白杵 英男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3		5	4	8	4	3									
小早川 孝男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3		5		8	4	3									
桑内 雅彦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3	3			6	4	3									
神林 俊一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			5	2	10		4	3									
白木 和廣	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2			3			4	3									
岡野 喜代治	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3		5	10	3	4	3									
市川 正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				7	5		4	3									
桐井 信征	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2			5	16		4	3									
小野 広実	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		5		15		4	3									
島田 裕司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			5	2	6		4	/									
後藤 正洋	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○		2	5		16		4	3									
柏樹 正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3		5	10		4	3									
高谷 茂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			5	2	16		4	3									
竹田 和雄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3	5	7	16		/	/									
山田 明美	○	○	○	○	○	○	平成19年4月任期満了									2						4	/									
小寺 和昭	○	○	○	○	○	○																		2				6		4	/	
前沢 昭治	○	○	○	○	○	○																					2			4	/	
田畑 富美男	○	○	○	○	○	○																						2			4	/
小武 正寿	○	○	○	○	○	○																		2					6		4	/
堀 梅治	○	○	○	○	○	○																						2	6		4	/

* 平成19年4月改選により、新たに委員会構成がされているため、各議員の出席日数に差異が生じています。



厳冬の青山 当別町を見守る「見晴らしの水松」

平成二十年、新春のお慶びを申し上げます。二十年という節目、さらに今年はネズミ年、十二支の始まりでもあり、強く気概を感じる。

昨年は漢字一文字の世相は「偽」であった。ミートホープ、白い恋人など北海道から全国に広まった「偽」に憤りをおぼえる。しかし一方では日本八木のリーグ優勝・コンサドーレのJ1復帰は道民に大きな感動をいただいた。平成二十年末の一文字は明るい文字を期待したい。

年が明けて青山の「見晴らしの水松（イチイ）」に行

った。当別町の開基の十倍、千三百年以上大地を見守っている。その生命力に驚嘆。これからも当別ダム completion、自立した地域社会の実現、協働によるまちづくりを青山の高台から見守ってくれるでしょう。物言わぬイチイの木に期待に応えたい。

春には皆さんも一度は「見晴らしの水松」と対面してはいかがですか。

議会広報特別委員会
(桑内委員)

あ
と
が
き

私・の・好・き・な イ・チ・イ・の・木